

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式						
AM33Z013		導入 (音楽) (Introduction (Music))					導入教育科目 文化・国際		対面						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態						
選択	1	1	医学部医学科	後期	水4	日本語			単独						
担当 教員	氏名 小川 伊作 (非)														
	E-mail i-ogawa@oita-u.ac.jp 内線														
授業 の 概 要	現代において、「音楽」は我々の生活の中で必須のものになっている。しかし「音楽」とは単純なものではなく、むしろ驚くほど多様で、深いものといえる。本講義ではこのように我々の生活と密接に関係を持ちながら、その実態を意識することの少ない「音楽」について、西洋音楽とその影響下に生まれた音楽の歴史をたどりながら様々な様態に触れ、あらためて「音楽」について考察する。														
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7
目標1	ともすれば娯楽として、感覚的な受容で満足してしまいがちな「音楽」に対し、歴史的な視点から音楽の多様性を説明できる。														
目標2	「音楽」という語のそもそもの成り立ちを説明できる。														
目標3	西洋クラシック音楽だけではなく、ジャズ、フォークソングに触れることで、より広範でフラットな視点から音楽を説明できる。														
目標4	本学が大分県に立地していることにかんがみ、大分ゆかりの音楽家にも理解を深め、説明できる。														
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
各DPへの関連度(計10)							7					3			
授業の内容															
1	オリエンテーション:「音楽」とは何か?その意味、由来、語源について														
2	西洋音楽の起源:古代ギリシアと中世の音楽														
3	祈りの音楽 中世ルネサンス音楽														
4	音の建築物 権威の象徴 バロック音楽														
5	音で思想を表現する 古典派音楽 モーツァルトの音楽														
6	音で思想を表現する その2 過度期の音楽 ベートーヴェンの音楽														
7	音で物語を表現する ロマン派音楽 標題交響曲と交響詩														
8	音で物語を表現する ロマン派音楽 その2 歌曲とオペラ														
9	行き着くところまで行ってしまった 20世紀の音楽 現代音楽														
10	20世紀の音楽:ジャズ 文化の混交 アメリカの産んだ20世紀最大の芸術音楽 その1 ジャズの誕生と発展 ニューオーリンズからスイングまで														
11	20世紀の音楽:ジャズ 文化の混交 アメリカの産んだ20世紀最大の芸術音楽 その2 バップからポスト・フリーまで														
12	20世紀の音楽:ジャズ 文化の混交 アメリカの産んだ20世紀最大の芸術音楽 その3 日本へのジャズの伝播とジャズの影響を受けたクラシック音楽														
13	20世紀の音楽:フォークソング 若者の気持ちを代弁 その1 アメリカン・フォークソング														
14	20世紀の音楽:フォークソング 若者の気持ちを代弁 その2 日本のフォークソングの誕生と変遷														
15	日本の音楽:大友宗麟時代の南蛮音楽/日本近代の音楽の生みの親「瀧廉太郎再発見」														
ラ ー ク ニ テ ィ ン グ ブ	A:知識の定着・確認	意識していろいろな音楽に接してみる。すでにクラシックを体験済みの学生は、クラシック以外の音楽を聴いてみる。ポップス系を聴いている学生は、少し我慢してクラシック音楽を聴いてみる。				工 夫 そ の 他 の	BGM的(ながら)聴取は不可。聴く際にメモを取る用意をしておくとなおよい。								
	B:意見の表現・交換														
	C:応用志向														
	D:知識の活用・創造														
授業時間外 学修の内容 と想定時間	準備学修	ムードルにアップされた講義資料をダウンロードし予習しておく(15h)。													
	事後学修	授業の復習をし、レポートに備え各種音楽の意識的聴取を心がける(30h)。アクティブラーニングレポートおよび期末レポートを書く(23)													
	想定時間合計	68													
教科書	特になし。 講義時にプリントを配布する。														
参考書	随時指示する。														

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標	目標
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	アクティブラーニングレポート(800字程度)	30%										
	期末レポート(2000字以上)	70%										
注意事項	アクティブラーニングレポートは12月、期末レポートは後期授業時間最終日を締め切りとするので提出を遅れないように。いずれもメールの添付ファイルで提出。ネット情報の丸写しは不可。生成AIなどの使用は妨げないが、ただ事案をまとめるだけでなく、自分の考え・感想を入れること。											
備考	レポートの提出の際は、大学より付与されたメールアドレスを使用のこと。外部のプロバイダーのメールを使用するとアラートが出て、最悪受信できない可能性がある。提出に際してはメールのタイトル、添付ファイル名および本文に、所属・学籍番号・氏名を必ず記入のこと(記入の有無は評価に影響することがある)。											
リンク												
	URL											